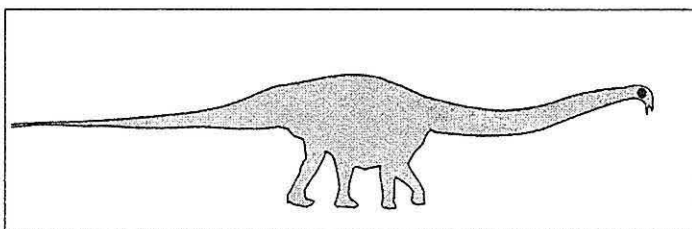


長い首と尾をもつ竜脚類

福井県勝山市^{かつやま}や兵庫県丹波市^{たんば}から竜脚類^{りゅうきやくるい}の化石が発見され、話題になっています。竜脚類とは首と尾が長い植物食のもっとも大きな恐竜で、有名な恐竜ではアプトサウルスやブラキオサウルスなどがいます。日本で最初に発見された恐竜化石は、1978年に岩手県岩泉町^{いわいずみ}で発見された竜脚類^{りゅうきやくるい}の骨でした。

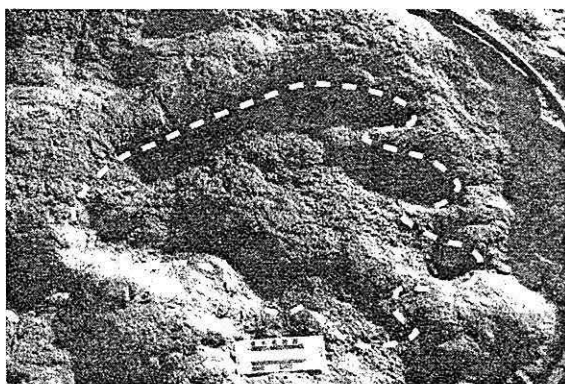
長い首と尾

長い首は、首を左右に動かして、同じ場所で広い範囲^{はんい}の植物を食べるために発達したと考えられています。尾は、長い首と前後のバランスをとるためにとても長くなりました。



大きな体

最近、中国で発見されたマメンチサウルスは全長が35mと推定^{すいてい}されています。このように巨大な体になったのはなぜでしょうか？理由の一つには体が大きいと肉食の恐竜からおそわれにくいという利点があります。もう一つは、コップ1杯の



写真：大山地域から発見された竜脚類

の足跡化石（後足）スケールは10cm

のお湯よりもお風呂のお湯のほうがさめにくいというように、体が大きいと体温を一定に保ちやすいという利点があります。

富山市の大山地域からは長さ約80cmの竜脚類^{りゅうきやくるい}の後足の足跡が発見されています（写真）。足跡の大きさから考えると、全長約20mはあったと思われます。1億年以上前の富山の大地を、大きな竜脚類^{りゅうきやくるい}がのっし、のっしと歩い

ている姿を想像してみてください。将来、富山でも竜脚類^{りゅうきやくるい}の骨や歯の化石が発見されるかもしれませんね。

（2010年1月 藤田 将人）